

2008年度中間決算説明会



株式会社 **千葉銀行**

2008年11月27日

目次

はじめに	2
------	---

第1章 業績の概要

業績概要	4
業績概要	5
2009年3月期業績予想	6

第2章 主要項目の実績

収益増減要因	8
資金利益	9
貸出金増減内訳	10
住宅ローン	11
有価証券	12
有価証券	13
マーケットビジネス	14
役務取引等利益	15
経費	16
信用コスト	17
信用コスト	18

第3章 今後の経営戦略

資本の活用	20
店舗戦略	21
大企業との取引の推進	22
リテールビジネス	23
富裕層向けビジネス	24
地方銀行との提携	25
配当政策	26

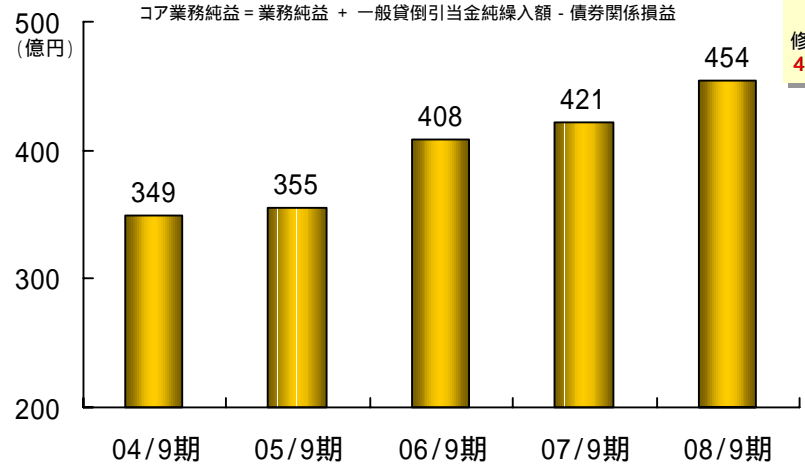
はじめに

2008年9月期は資金利益の増加を主な要因として、コア業務純益が454億円と前年同期比32億円、7.8%増加しました。

一方、国内外の経済・金融環境の悪化を受けて、実質信用コストや有価証券にかかる損失が大幅に増加したことから、中間純利益については73億円と、前年同期比199億円減少しました。

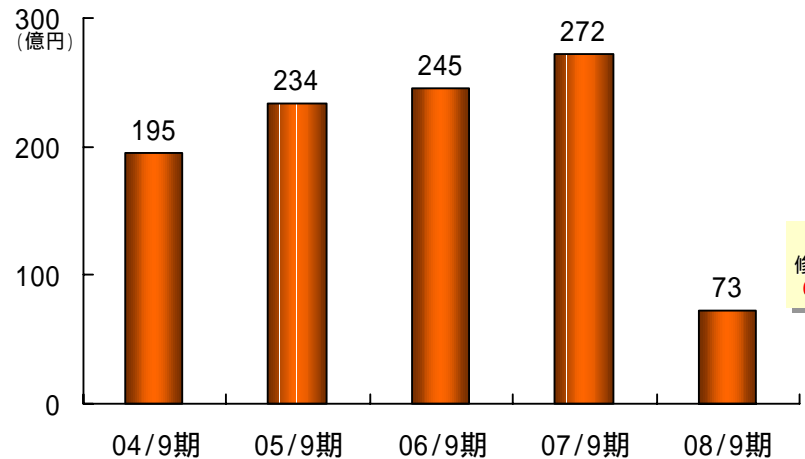
本日は中間決算の概要などについて説明した後、今後の当行の経営戦略について説明いたします。

コア業務純益



10/3
修正開示
450億円

中間純利益



10/3
修正開示
60億円

業績の概要

業績概要

◆コア業務純益が順調に増加した一方、債券関係損益は悪化

<億円>	07/9期	08/9期	増減額
業務粗利益	795	730	65
資金利益	688	734	46
役務取引等利益	100	90	9
特定取引利益	15	16	1
その他業務利益	8	111	103
うち 国債等債券損益	21	128	106
うち 債券売却損益	12	78	66
うち 債券償却	9	50	40
経費	395	404	8
うち 人件費	189	198	9
うち 物件費	184	183	0
実質業務純益(-)	400	326	73
コア業務純益(- -)	421	454	32

	<億円>	
	08/9期	増減
資金利益	734	46
国内業務部門	708	34
うち預貸金	622	24
貸出金利息	729	41
預金利息	106	16
うち有証利息配当金	93	9
国際業務部門	26	11
役務取引等利益	90	9
役務取引等収益	172	5
うち投信+年金保険等	51	9
投資信託	25	17
年金保険等	25	7
役務取引等費用	82	4
債券関係損益	✓海外金融市場の混乱に起因する 保有債券の価格下落により損失 が発生	

業績概要

◆ 実質信用コストの大幅な増加を主因として中間純利益が減少

<億円>	07/9期	08/9期	
			増減額
実質業務純益	400	326	73
一般貸倒引当金純繰入額	-	75	75
業務純益	400	250	149
臨時損益	15	139	123
うち 不良債権処理額	56	139	82
うち 株式等関係損益	16	12	29
うち 株式売却損益	17	2	14
うち 株式償却	1	14	13
経常利益	384	111	272
特別損益	68	19	49
うち 貸倒引当金戻入益	64	-	64
うち 償却債権取立益	27	21	5
中間純利益	272	73	199
実質信用コスト(+ - -)	35	193	228
連結中間純利益	279	76	202
連単差	6	2	3

実質信用コスト

<億円>	08/9期	
		増減
一般貸倒引当金純繰入額	75	124
不良債権発生内訳	139	98
債務者区分悪化	150	59
担保	18	10
回収等(含引当率低下)	29	27
信用コスト	215	223
償却債権取立益	21	5
実質信用コスト	193	228

修正開示との比較

<億円>	修正開示 (10/3公表)	実績	
			増減
業務粗利益	725	730	5
実質業務純益	320	326	6
コア業務純益	450	454	4
経常利益	90	111	21
中間純利益	60	73	13
国債等債券損益	130	128	2
実質信用コスト	210	193	17

2009年3月期 業績予想

◆ 下期の有価証券関係損失は95億円、信用コストは上期程度の不良債権発生を前提として予想

<億円>	08/3期	09/3期			09/3期	
	(実績)	(計画)	08/3期比	上期 (実績)	下期 (計画)	(中計)
業務粗利益	1,631	1,495	136	730	765	1,800
うち 資金利益	1,395	1,455	60	734	721	
うち 役務取引等利益	184	180	4	90	90	
経費	792	815	23	404	411	850
実質業務純益	839	680	159	326	354	950
コア業務純益	848	890	42	454	436	
経常利益	700	280	420	111	169	
当期(中間)純利益	446	180	266	73	107	550
有価証券関係損失 ²	78	244	166	149	95	
信用コスト	87	395	308	215	180	
実質信用コスト	36	355	319	193	162	70
連結経常利益	791	300	491	121	179	
連結当期純利益	459	190	269	76	114	580

1. 連結経常利益、連結当期純利益以外は単体ベース

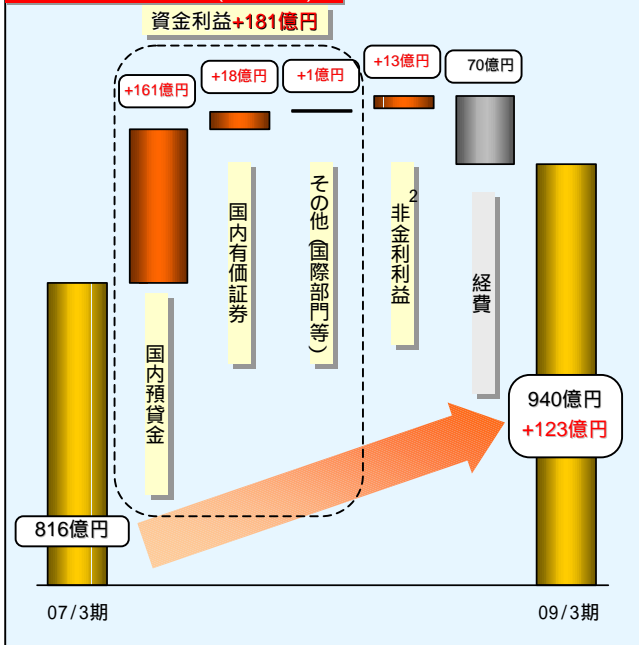
2. 国債等債券売却損、国債等債券償却、株式等売却損、株式等償却の合計

主要項目の実績

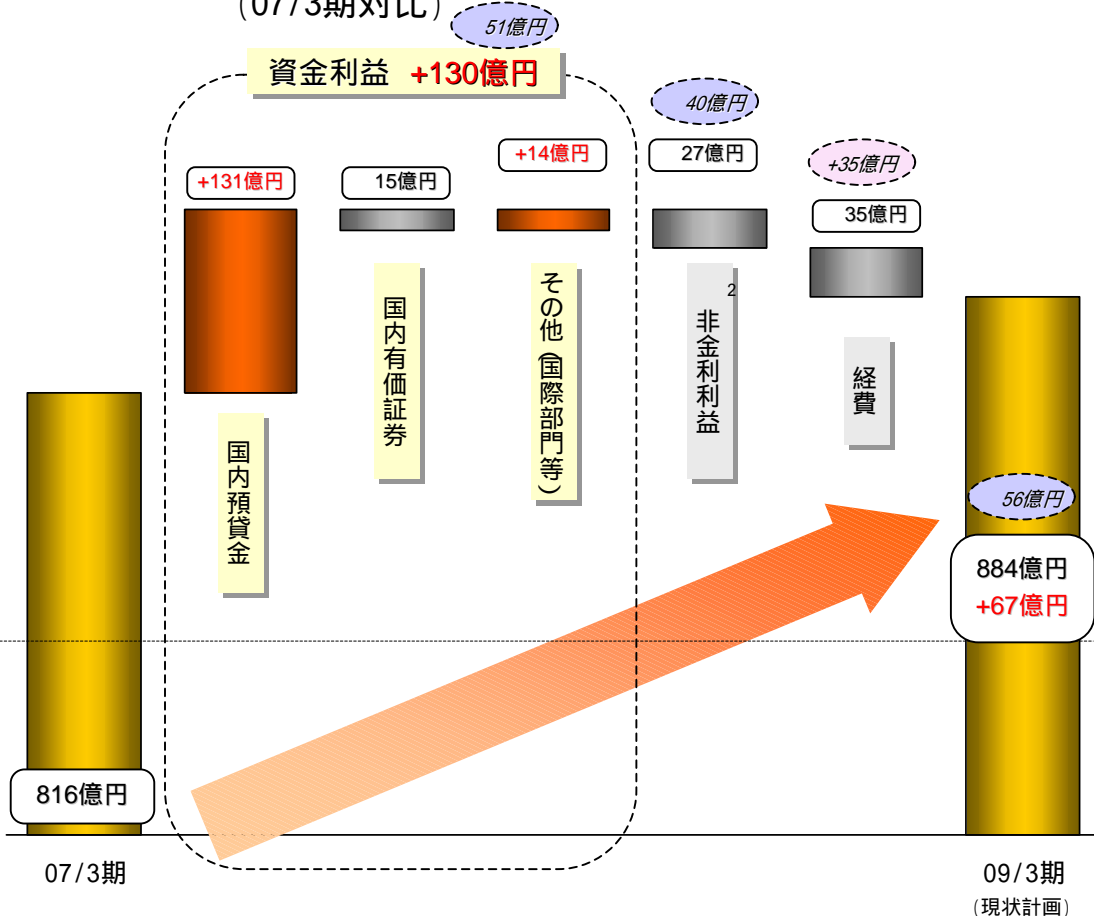
収益増減要因

◆ 預貸金資金利益を中心に収益増加

中計当初計画(2年間)



09/3期実質業務純益増加の見込み¹ (07/3期対比)



金利前提

当初計画

07/12に0.25%利上げ

現状

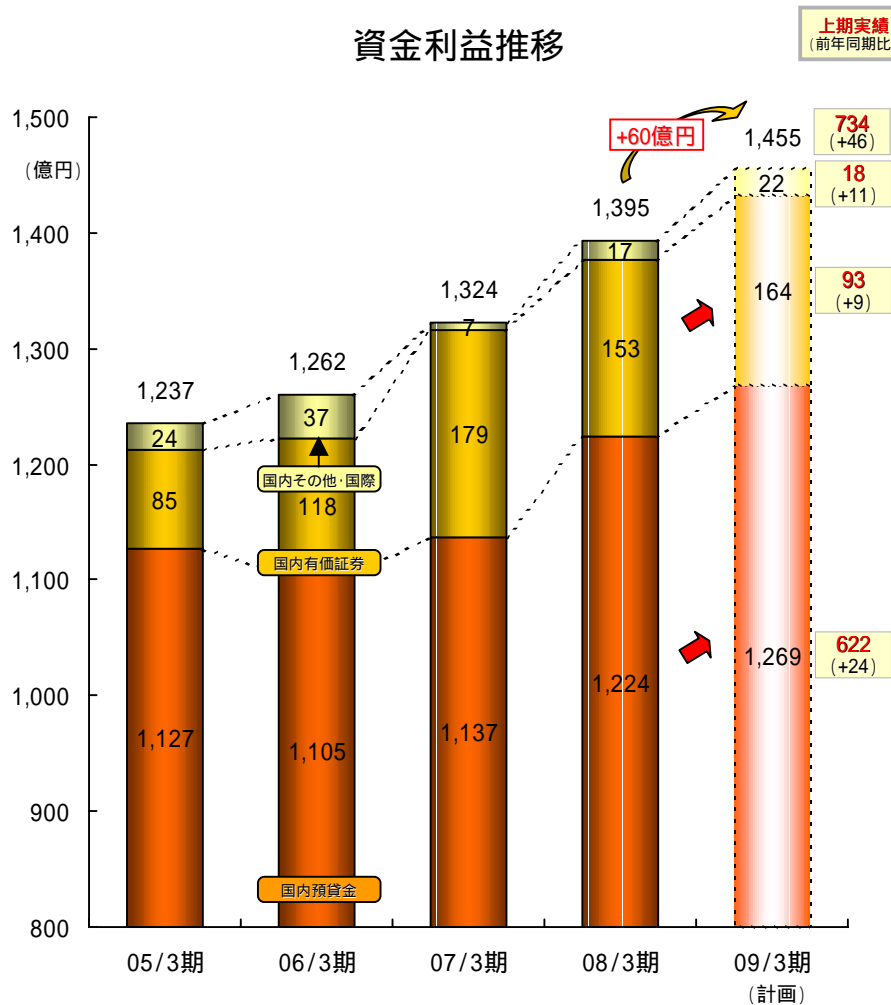
08/10に0.20%利下げ

¹債券関係損益、金融派生商品損益を除くベースで表示
²非金利利益 = 役務取引等利益+外為売買益等+特定取引利益

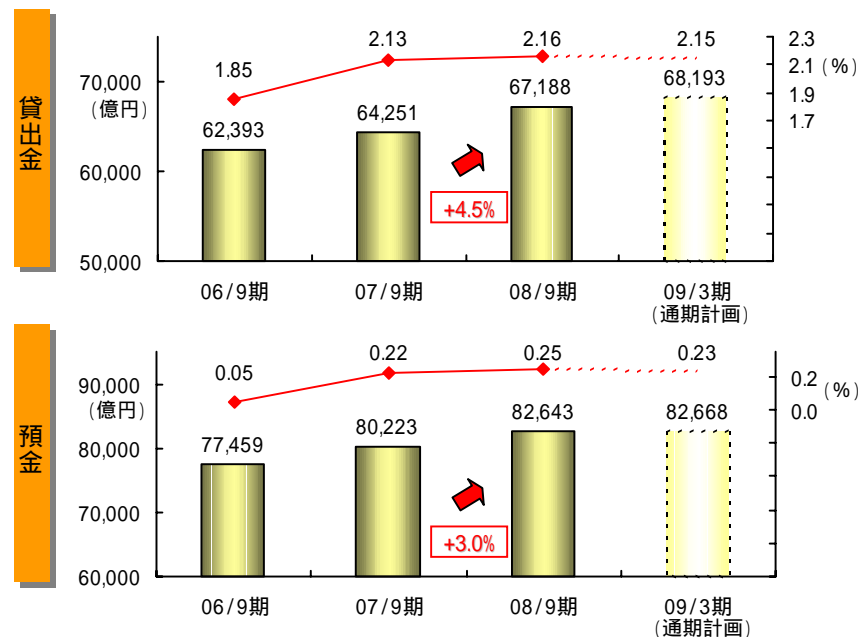
資金利益

◆ 貸出金のボリューム増加を中心とした資金利益増加を見込む

資金利益推移



国内部門主要項目推移 (平残・利回り)



✓ 利下げによる影響
7億円程度 (今期収益にプラス)
 ✓ 当行の主な金利変更
 普通預金: 0.2% 0.12% 短プラ: 2.25 2.05%

貸出金増減内訳

◆ 事業者向け・消費者ローンともに順調に貸出金が増加

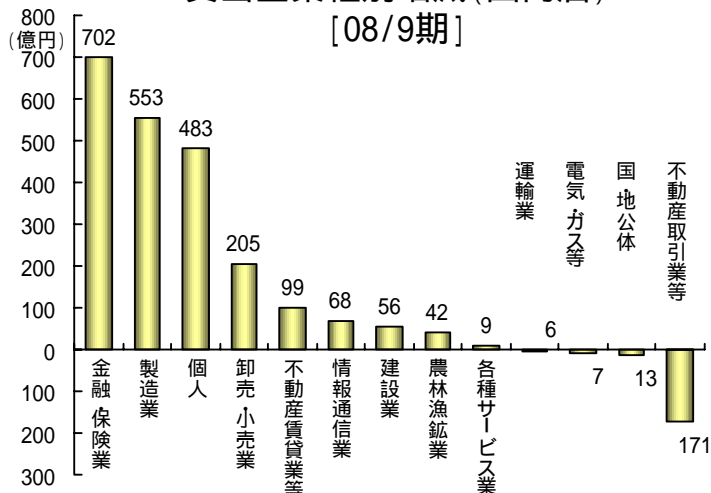
貸出金増減内訳

< 億円 >	08/3末	08/9末	08/9期実績	
			08/3末比	同増減率 (年換算)
国内貸出金	66,299	68,321	2,021	6.0%
除く公共	62,104	64,320	2,215	7.1%
事業者向け	39,729	41,457	1,727	8.6%
消費者ローン	22,375	22,862	487	4.3%
公共	4,195	4,001	193	9.1%

貸出金地域別増減 (国内店)

	08/9期実績	増加率 (年換算)
国内貸出金	+2,021億円	+6.0%
千葉県内	+264億円	+1.0%
事業者向け貸出等	170億円	1.1%
消費者ローン	+434億円	+3.9%
県外	+1,757億円	+24.9%
東京都東部等 ¹ (中小企業等)	+31億円	+1.7%
県外特別店 ² (大企業等)	+1,726億円	+32.9%

貸出金業種別増減 (国内店)
[08/9期]

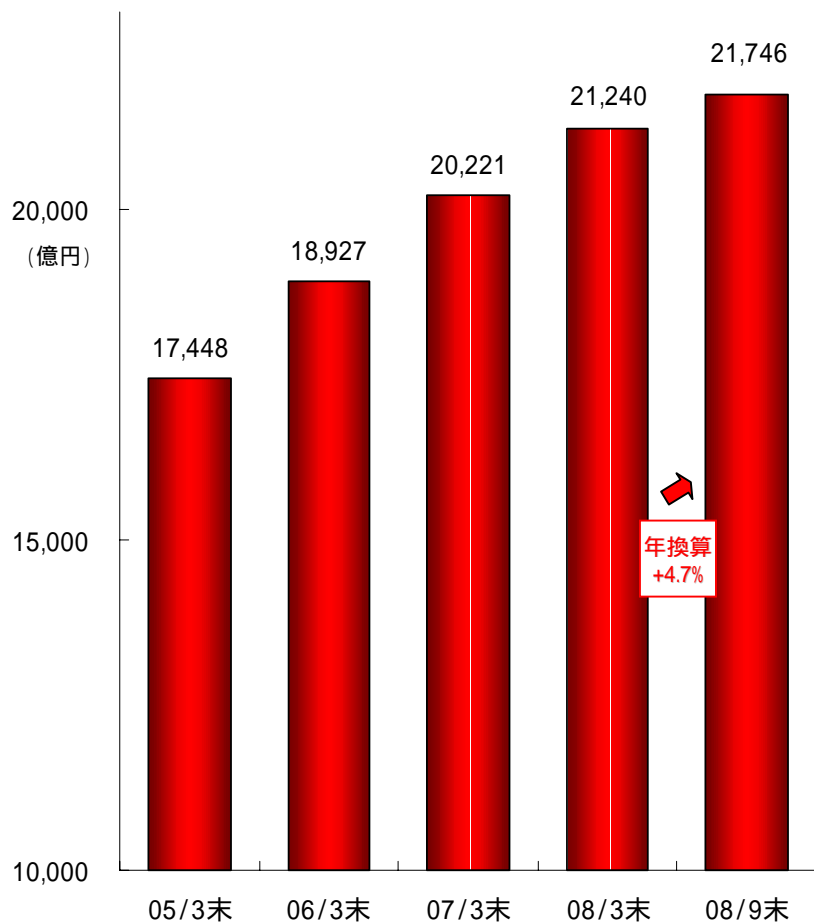


1.東京都・埼玉県・茨城県における県外特別店以外の支店の残高
2.東京営業部・新宿支店・大阪支店の残高

住宅ローン

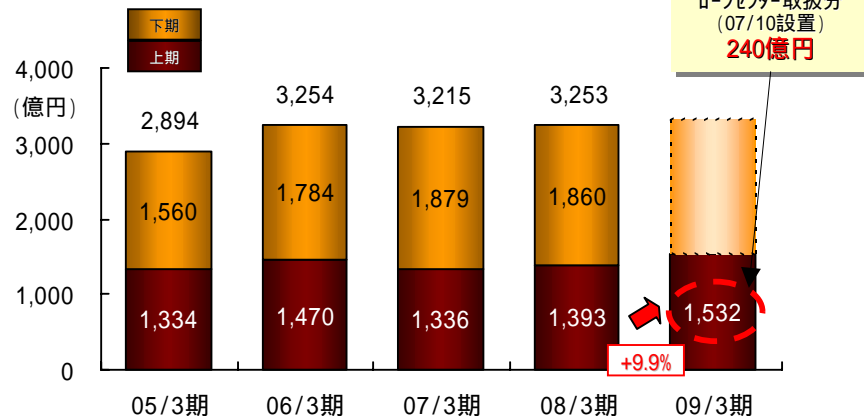
◆ 市場環境の悪化にもかかわらず好調な実績

住宅ローン残高推移

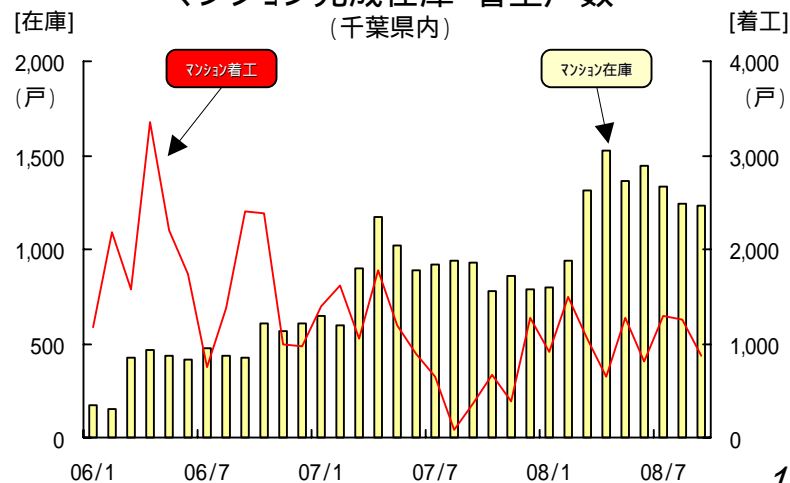


08年2月に住宅ローン証券化実施(280億円)

住宅ローン実行額推移



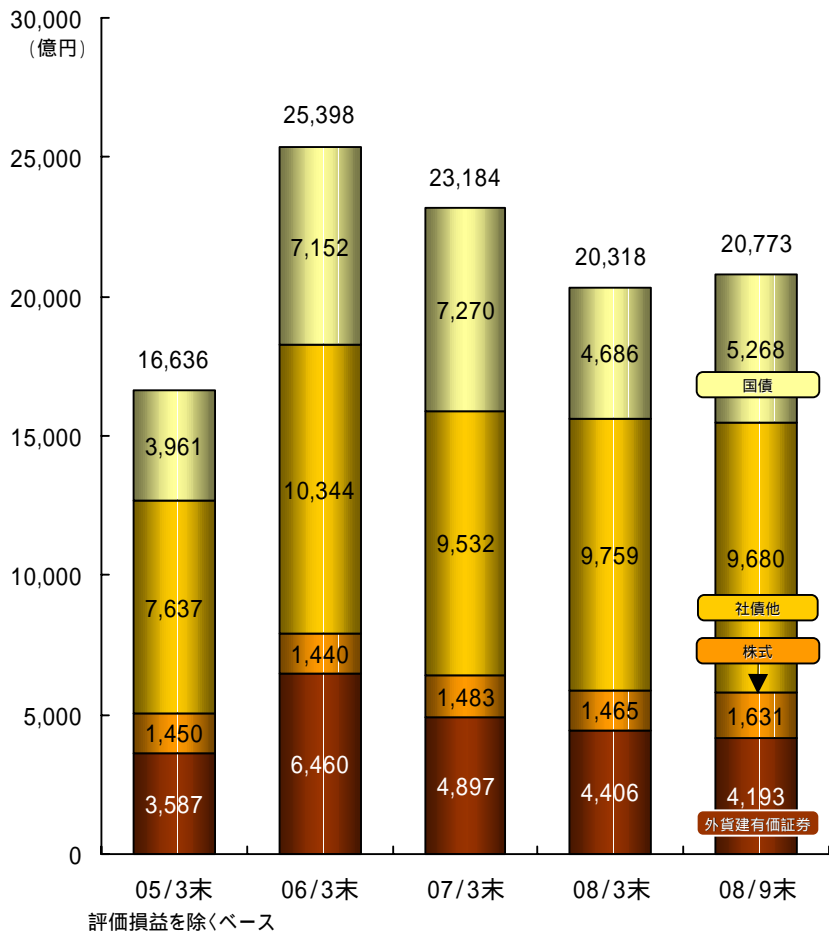
マンション完成在庫・着工戸数 (千葉県内)



有価証券

◆円貨債券の利回り・収益は向上

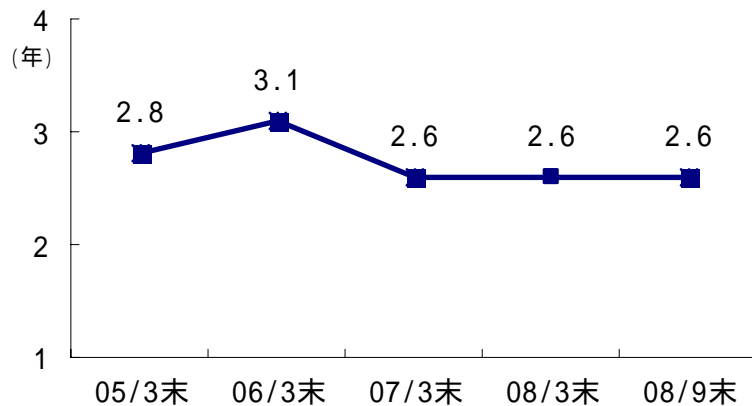
有価証券末残推移



国内業務部門有価証券収益

	07/9期	08/9期	増減
	実績	実績	
預貸金差額[平残] (億円)	15,972	15,455	516
有価証券[平残] (億円)	17,537	15,971	1,566
利回り (%)	0.95	1.16	0.21
収益 (億円)	83	93	9

円債の平均残存期間



有価証券

◆ 評価損は拡大、損失計上により早期に健全化

有価証券含み損益

(億円)

	簿価	時価	評価損益
有価証券合計	20,773	20,573	200
うち変動利付国債	1,947	1,791	156
うち株式関連投資	2,537	2,702	164
株式	1,631	1,963	331
投資信託等	906	738	167
うち外国債券(含円貨建)	4,717	4,520	197
うち金融機関	1,320	1,221	99
うち証券化商品	216	194	21
うちSIV・CDO	41	41	0
うち住宅ローン担保債権	1,059	1,030	29

対処方針等

✓ 時価評価方法の見直し等検討
自己資本比率改善 0.18% (評価損ゼロを前提)

✓ 売却等一定のコストをかけて健全化

(億円)

	09/3期	
	09/3期	下期(計画)
株式等の償却等	40	25
外国債券の売却損・償却	197	70
合計	237	95

✓ ジニーメイ・ファニーメイ・フレディマック
新規投資は慎重対応

マーケットビジネス

◆地方銀行としての原点に立ち返り、マーケットビジネスを再構築

マーケットビジネスのミッション

- 預貸金差額を原資とした安定的な運用収益の確保
- 顧客ニーズに対応したデリバティブ商品等の提供・顧客の海外進出支援

具体的な戦略は次期中計で明示

方向感

預貸ギャップをベースとした円債運用による収益の向上

外債運用は残高圧縮、証券化商品の新規投資は見合わせ

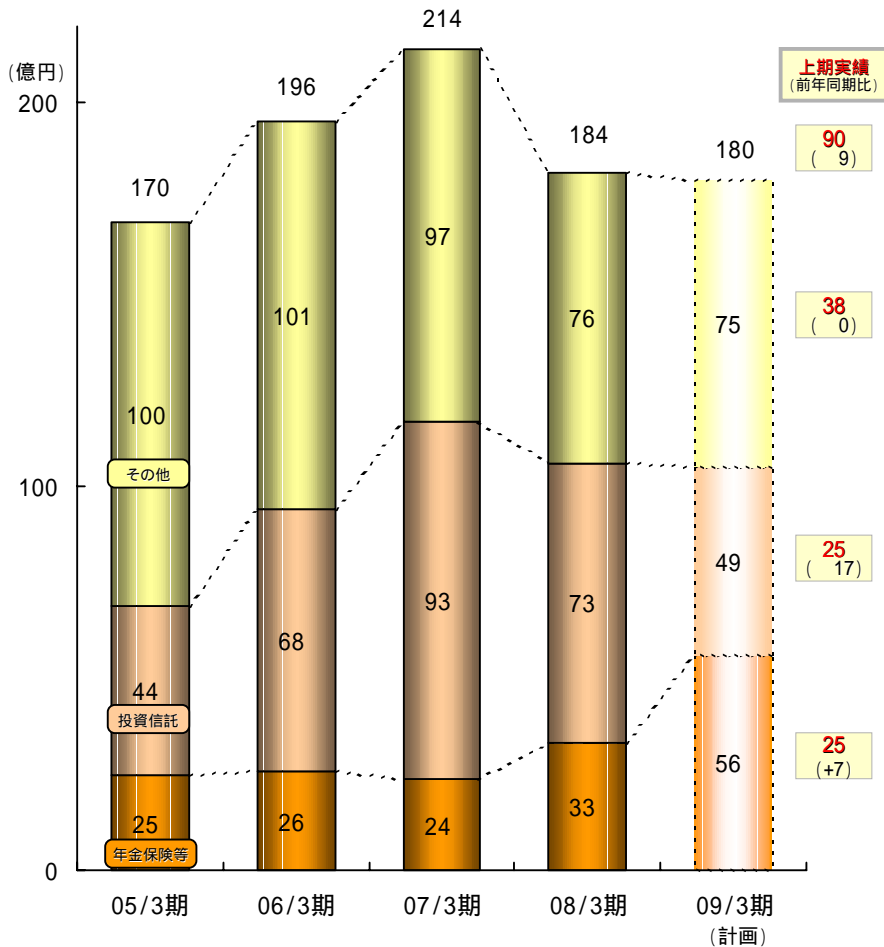
顧客支援の為の市場取引スキルの向上

有価証券ポートフォリオの健全性の維持
向上(評価損益の管理徹底)

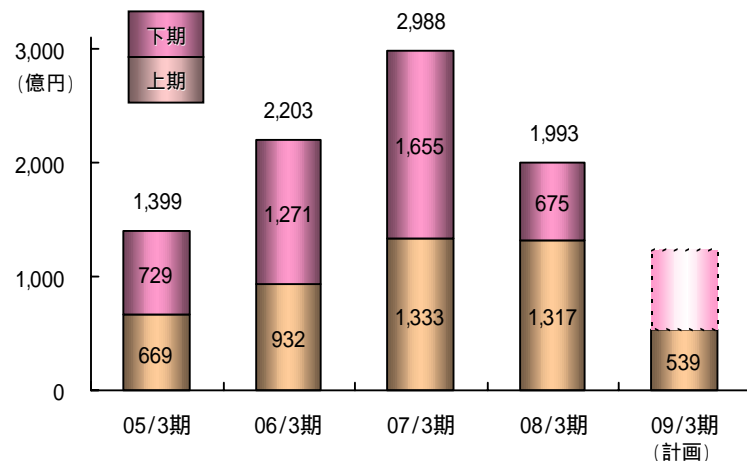
役務取引等利益

◆ 投信販売は減少するも、変額年金保険販売は過去最高を更新

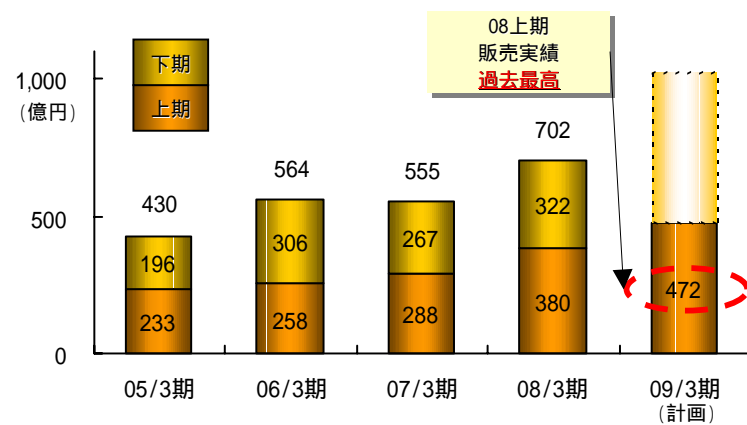
役務取引等利益推移



株式投信販売実績・計画



変額年金保険販売実績・計画



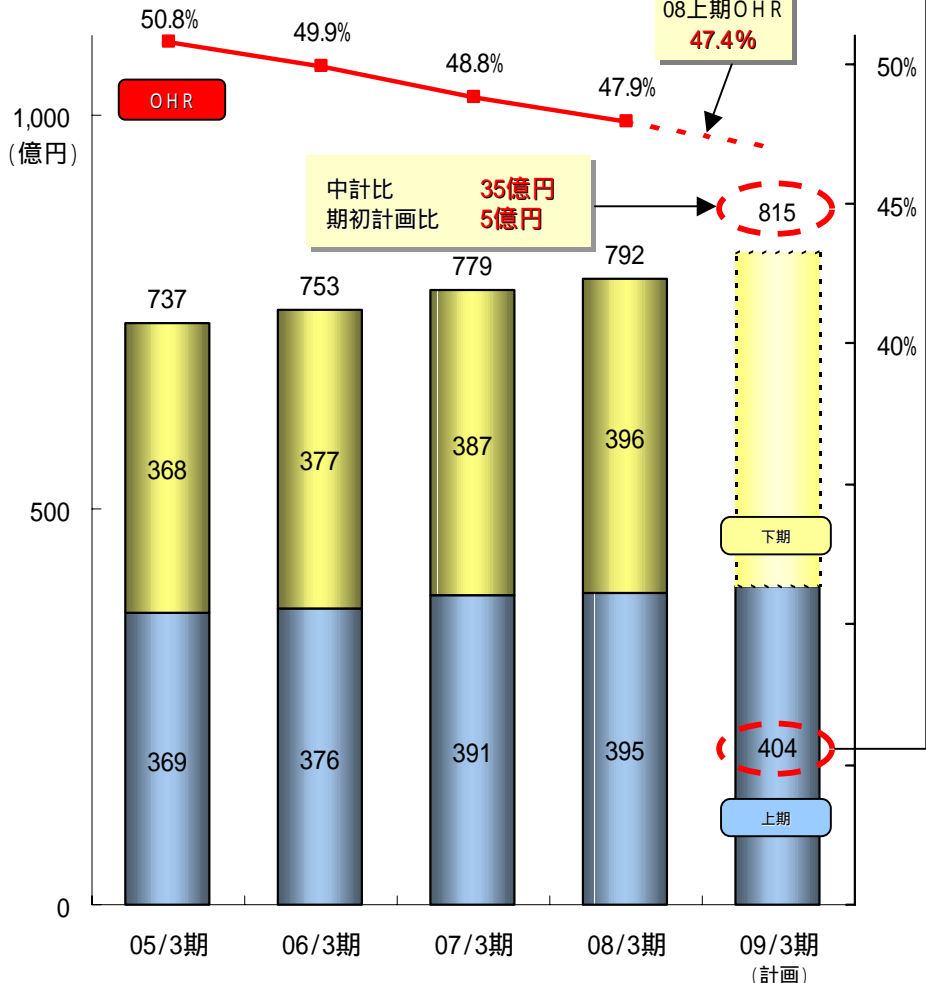
経費

◆ 経費支出をコントロールし収益減少をカバー、高い効率性を維持

OHR・経費

経費増減内訳

(億円)

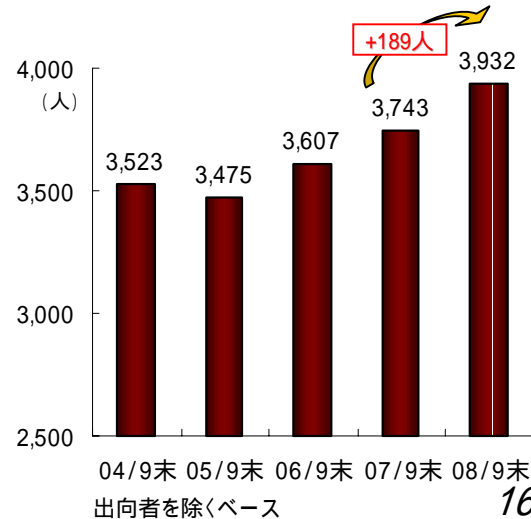


	07/9期	08/9期	07/9期比
経費	395	404	8
人件費	189	198	9
物件費	184	183	0
税金	22	21	0

新卒採用人数推移

年月	人数
04/4	97
05/4	119
06/4	264
07/4	254
08/4	262

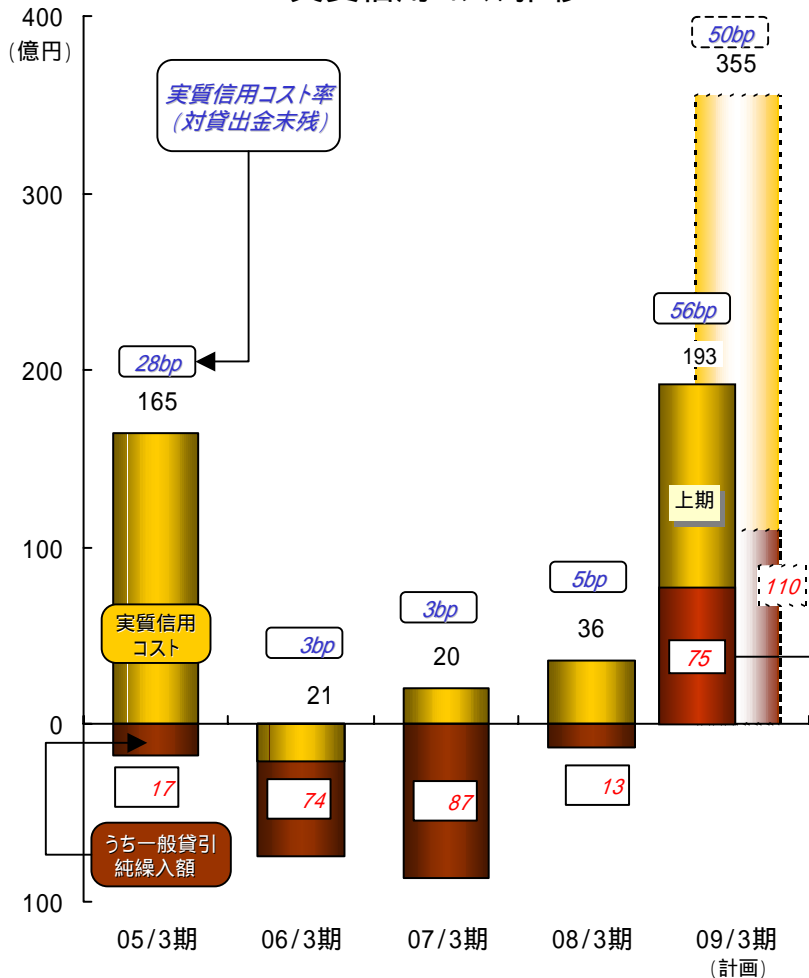
従業員数



信用コスト

◆ 企業倒産増加の影響により、実質信用コストは大幅に増加

実質信用コスト推移

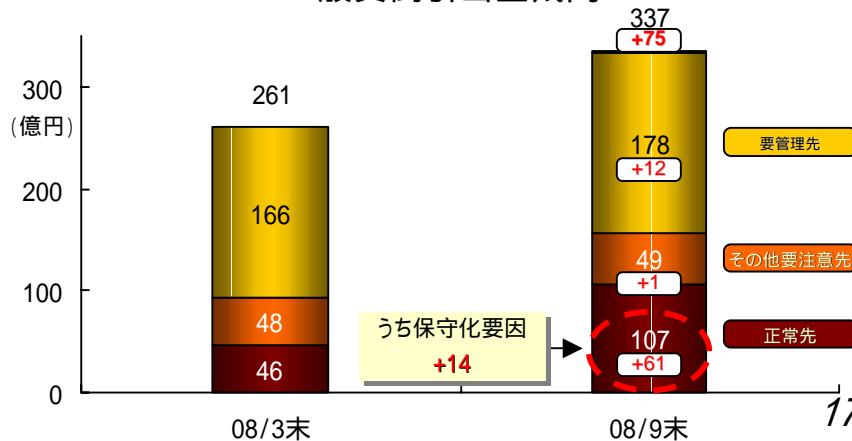


実質信用コスト発生内訳 (億円)

	08/3期		09/3期	
	上期	下期	上期	下期 (見込み)
一般貸倒引当金純繰入額	49	36	75	34
不良債権処理額	41	58	139	145
うち新規発生	90	85	150	145
信用コスト	+	7	94	215
		87	395	
償却債権取立益	27	23	21	18
実質信用コスト	+ -	35	71	193
		36	355	

貸倒引当金戻入益に計上された金額を、それぞれ一般貸倒引当金純繰入額、不良債権処理額に戻して表示

一般貸倒引当金残高

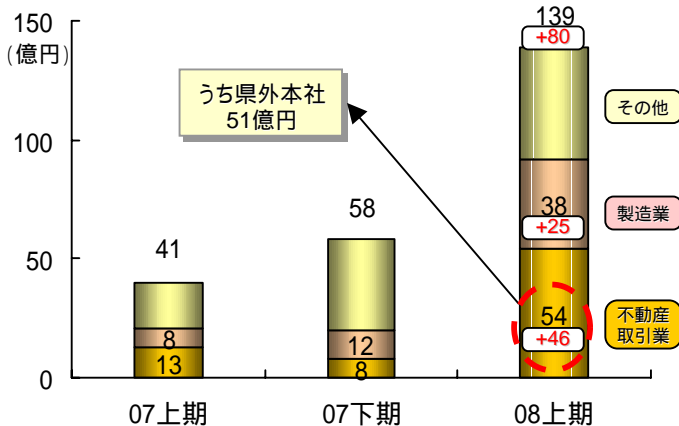


06/3期、07/3期、08/3期は特別利益の中の貸倒引当金戻入益に含めて計上

信用コスト

◆ 県外不動産取引業を中心に不良債権処理額が増加するも、今後の発生は限定的

業種別不良債権処理状況



不動産業向け貸出内訳

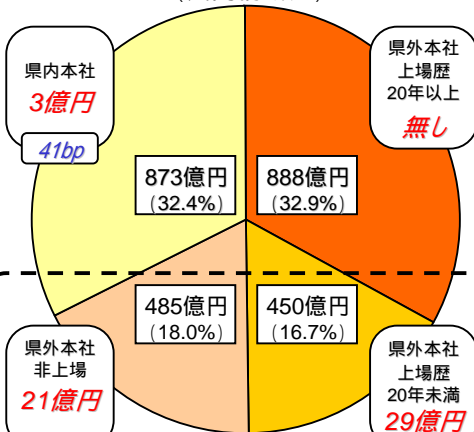
	08/3末		08/9末		08上期 不良債権 処理額
	金額	構成比	金額	増減	
国内貸出金	66,299	100.00%	68,321	2,021	139
うち不動産業	14,704	22.18%	14,632	72	48
不動産賃貸・管理業	11,010	16.61%	11,110	99	6
不動産取引業等	3,693	5.57%	3,521	171	54
不動産取引業	2,715	4.10%	2,697	17	54
県内本社	946	1.43%	873	73	3
県外本社	1,768	2.67%	1,823	55	51
公社・公団	978	1.48%	824	153	0

不良債権処理額全体の実績(その他資産等も含む)

うち上場歴20年以上 +289億円!

不動産取引業内訳

(残高構成比)



✓ 与信管理を強化

- ・地域や資金用途に応じた営業店長の決裁権限の一部制限
- ・チェックシートの制定による入り口審査や中間管理の厳格化 等

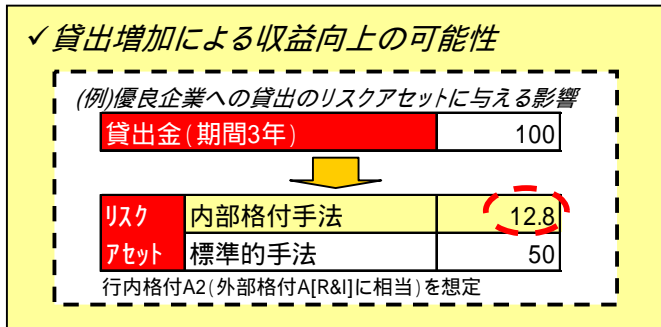
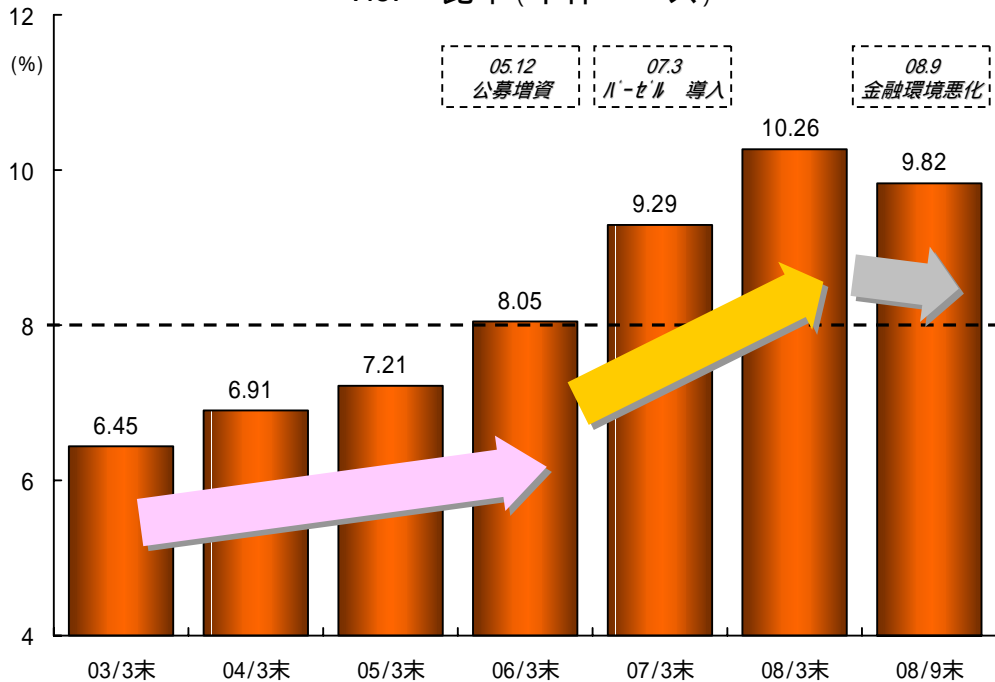
今後の経営戦略

資本の活用

◆金融環境悪化でも自己資本充足を確認、貸出増加による収益増強



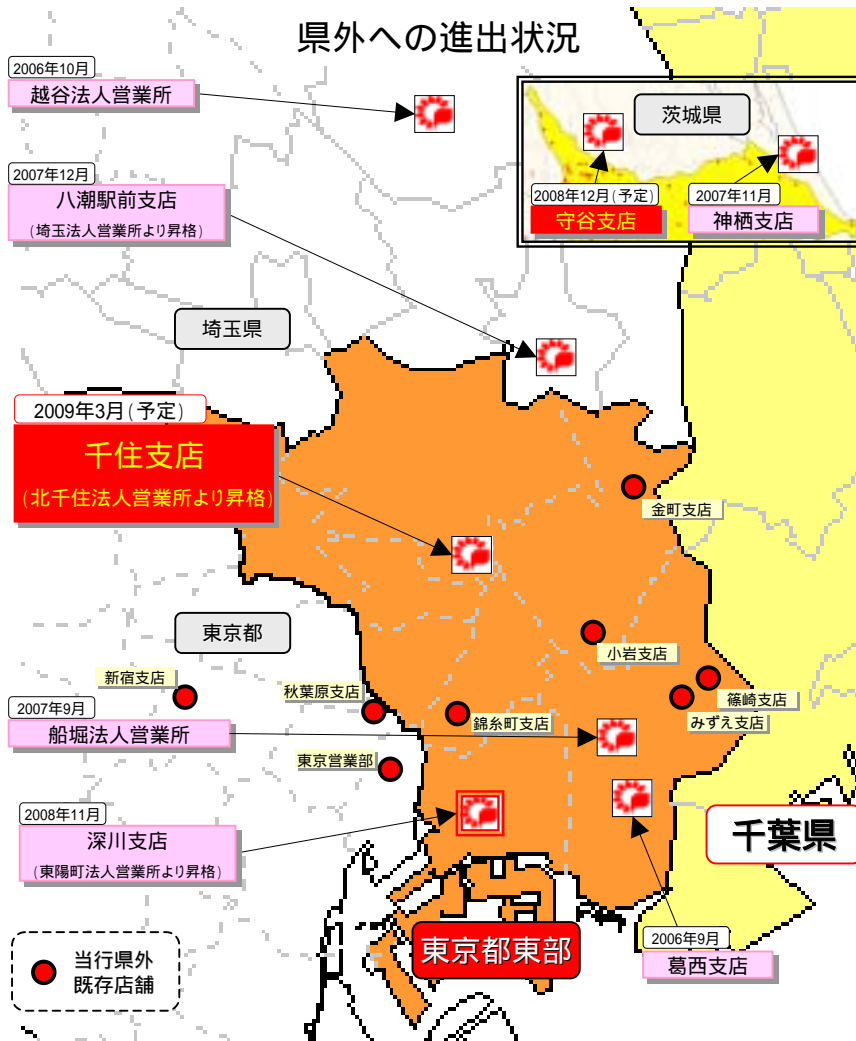
Tier 比率(単体ベース)



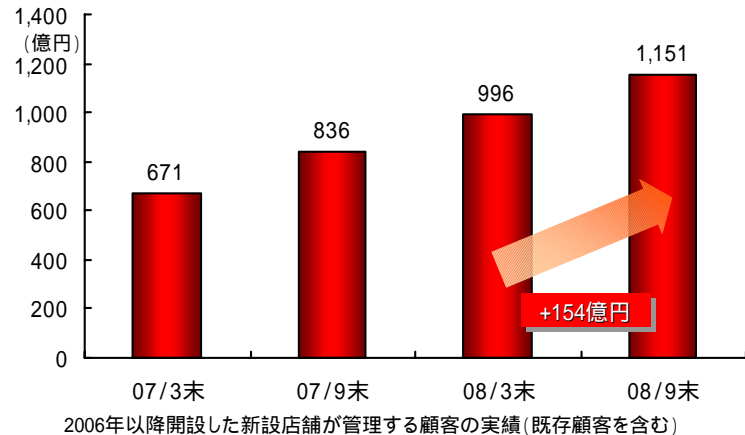
店舗戦略

◆ 県外店舗の貸出金は質を伴って順調に増加

県外への進出状況



県外新設店舗の貸出金推移



地域別金融再生法開示債権

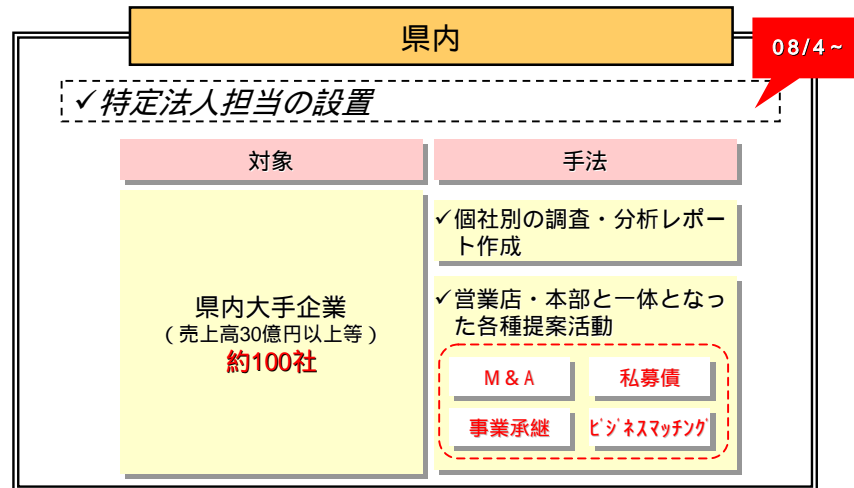
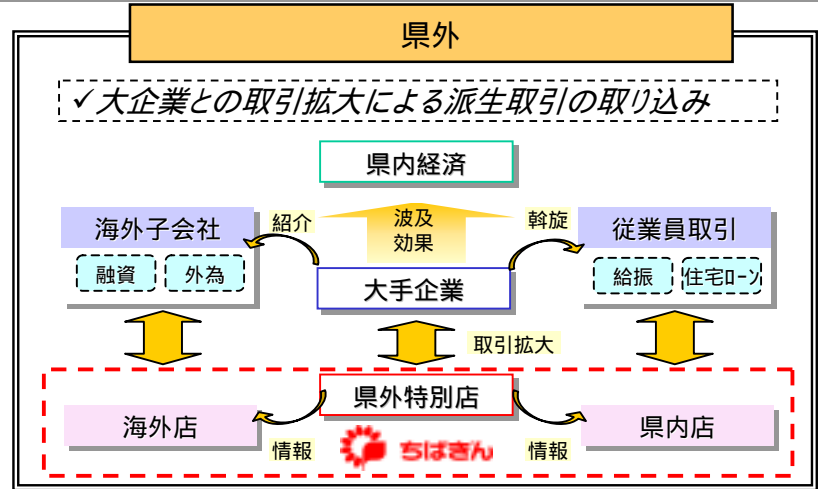
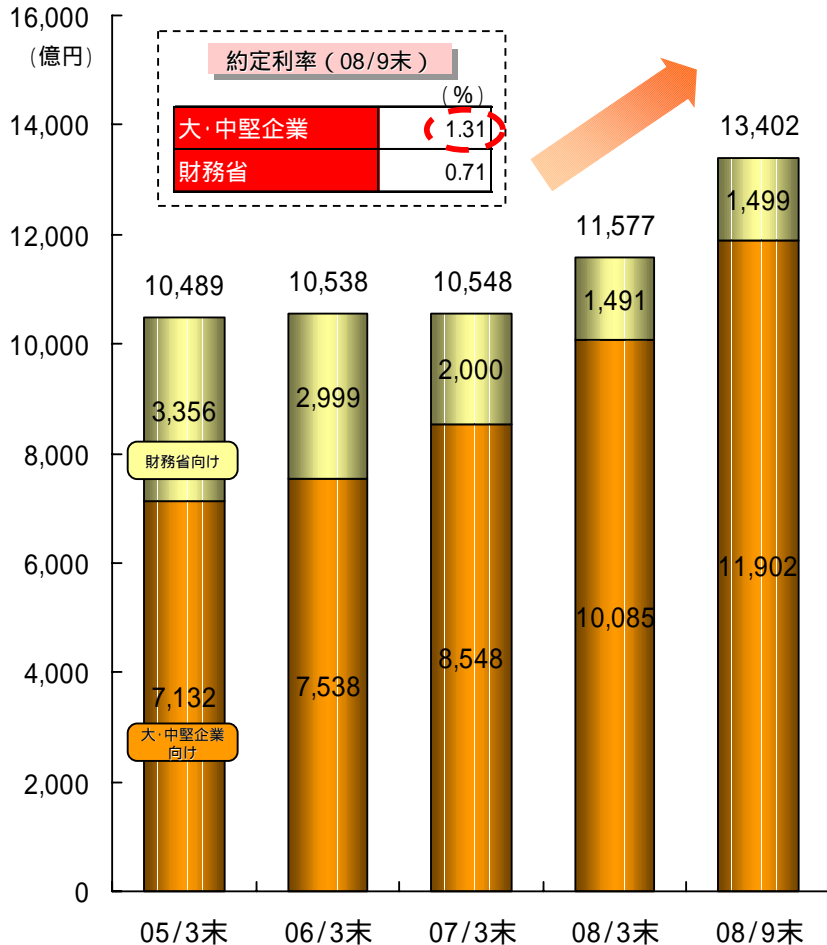
	総与信額	金融再生法 開示債権 (億円)	
		金融再生法 開示債権	不良債権 比率
全店計	70,516	1,930	2.73%
県内	53,590	1,807	3.37%
県外	16,315	122	0.75%
うち新設店舗	1,114	2	0.25%
海外	611	0	0.00%

母店が県内支店の越谷法人営業所は県内にカウント

大企業との取引の推進

◆大企業の資金ニーズに的確に対応、本体取引をテコに総合取引を推進

大・中堅企業向けおよび財務省向け貸出残高



リテールビジネス

◆リテールビジネスの強化に向けてさまざまな取り組みを実施

08年7月
第4回「銀行リテール力調査」
第1位 獲得
(全国122銀行中)

日本経済新聞社・日経リサーチ共同調査

特に店頭サービスが高い評価

	配点	得点	順位 (122行中)
総合	300	264.7	1
店頭サービス	200	186.7	1

相談・説明・接客姿勢の向上

エクセレントサービス キャンペーン

- ✓ 職員の投票に基づき顧客などへの対応に優れた職員を表彰



第4回エクセレントサービスキャンペーン

金融商品保有者への アフターフォロー

- ✓ アフターフォローの観点から運用報告会を随時開催
- ✓ 61ヶ所7,122名参加(07/7~)

チャネルの充実

コンサルティング プラザ

- ✓ 県内主要駅(千葉・柏・船橋)付近に独立店舗として設置
- ✓ 土日・祝日および夜間も営業



コンサルティングラウンジ 真砂

08/10
オープン

コンサルティング ラウンジ真砂

- ✓ 既存支店内に独立空間
- ✓ 365日稼働の全自動貸金庫(約500個)設置

富裕層向けビジネス

◆ 富裕層のニーズを捉え取引を拡大

富裕層向け会員組織の創設

年会費
無料



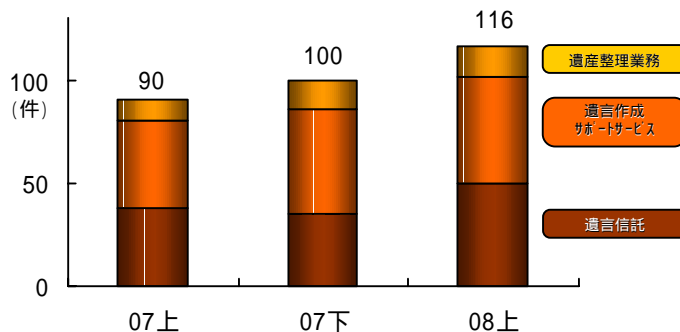
約20万先

「ちばぎん夢倶楽部」

- ✓ 当行金融資産1,000万円以上の個人に対し金融・非金融サービスを提供
- ✓ 会員からのアンケートにより富裕層のニーズを収集

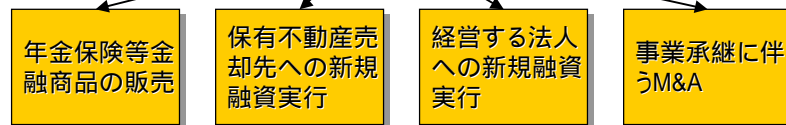
相続関連業務

✓ 年商10億円以上の企業オーナー、当行選定富裕者等をターゲットとして各種提案活動を展開

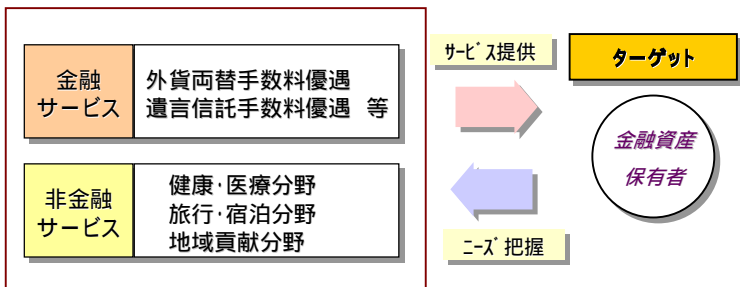


✓ 相続関連業務を切り口とした派生取引の拡大

相続関連業務



2008年上期に実際にあった事例

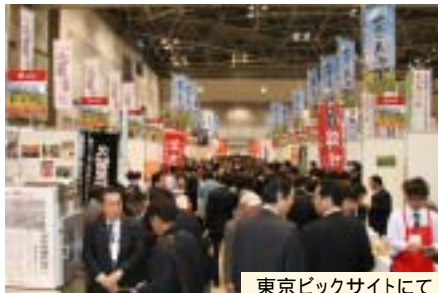


地方銀行との提携

◆他地銀との提携による各種活動により、地銀ならではの付加価値を提供

ビジネスマッチング

地方銀行フードセレクション2008 (08/11)



東京ビックサイトにて

- ✓本年で3回目
- ✓出展者・参加銀行は毎年増加



地方銀行13行

住宅ローン

「地銀住宅ローン共同研究会」



08/5~

「ロングエスコート」

- ✓女性専用住宅ローン
非金融付帯サービス
出産・育児等休業時に最大1年間の元金据置

「ハッピーエブリデー」

- ✓住宅ローン利用者優遇サービス
非金融付帯サービス
各種ローン金利優遇
繰上返済用積立定期預金



08/8~

ATM提携

ATM提携(手数料無料化等)

07/10~

東京都民銀行

横浜銀行



関東つくば銀行

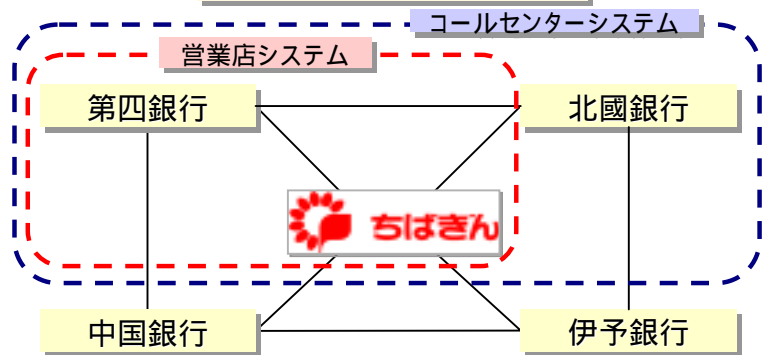
常陽銀行

武蔵野銀行

08/8~

システム

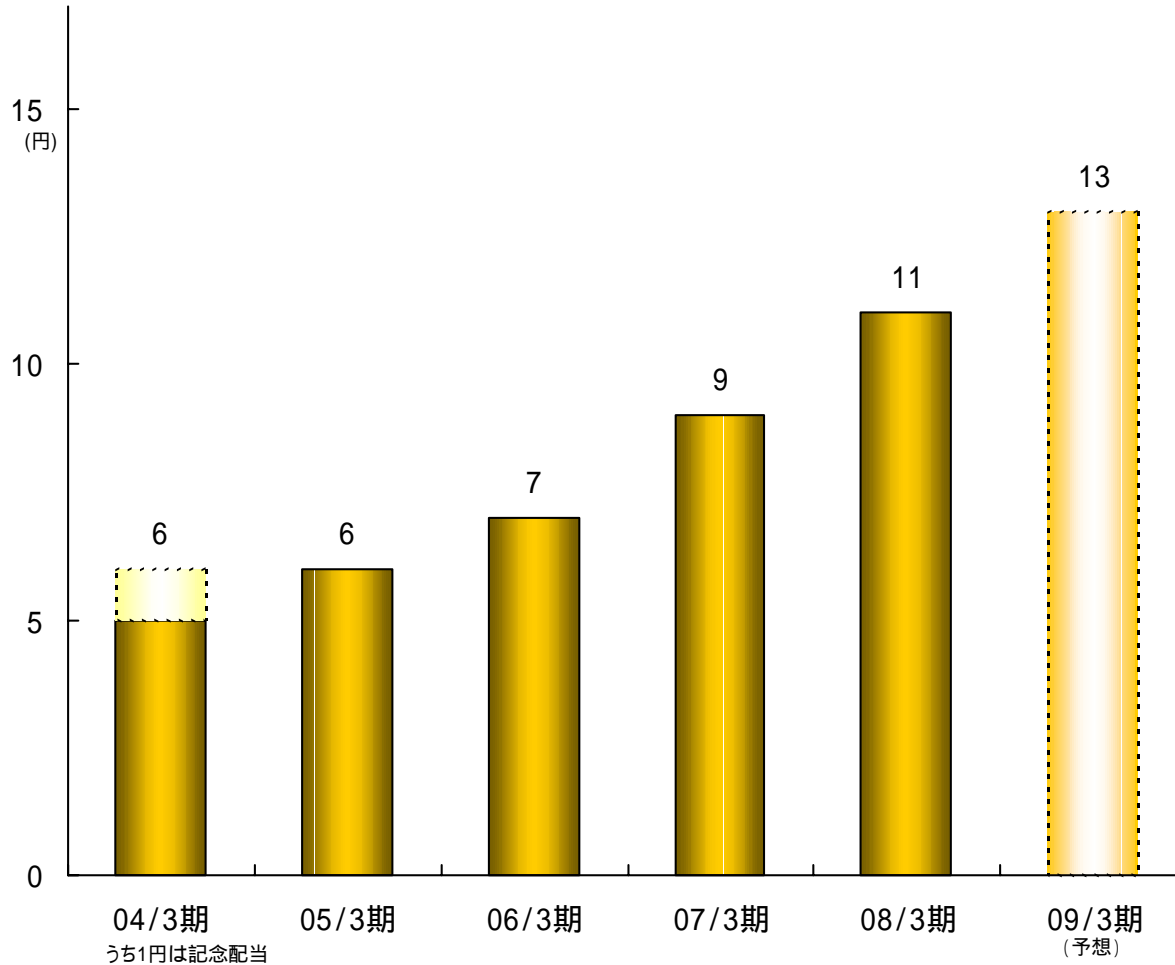
TSUBASA(翼)プロジェクト



配当政策

◆安定配当の考え方を維持しつつ配当金額の継続的な増加を目指す方針のもと、年13円を計画

一株当たり配当実績・計画



配当性向推移

(億円)

	連結当期純利益	配当総額	配当性向
09/3期 (計画)	190	116	61.2%
08/3期	459	98	21.3%
07/3期	525	80	15.2%
06/3期	489	62	12.2%
05/3期	363	50	13.8%
04/3期	275	50	18.3%